

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 後藤隆徳

年月日 平日＝2011年9月08日（木・晴）  
休日＝2011年9月25日（日・快晴）

回数 2010期・第16回  
2011期・第4回

- 巡礼寺・順 ●十四番札所 慈光院（じこういん）
- \* 本尊・阿弥陀如来
  - \* 山号・龍泉山
  - \* 曹洞宗
  - \* 草創・1510（永正七年）
  - \* 開山以前は光明遍照金剛梅林寺、梅香院と称し真言宗に属していました。  
その後、弘法大師の作といわれる、延命地藏菩薩を本尊として、伝説の龍の戒名から龍泉院慈光院、と称し曹洞宗の寺として開山する。  
その後 1807（文化七年）の火災で全てを焼失したが本尊を阿弥陀如来として再建復興される。  
龍の伝説の寺宝（龍の爪と18枚の鱗）は5年ごとの命日に当たる五月五日に開帳され  
供養祭が行われます。
- 十五番札所 高岩院（こうがんいん）
- \* 本尊・薬師如来
  - \* 山号・華頂峰
  - \* 臨濟宗（円覚寺・末）
  - \* 草創・1368（応安元年）国清寺の奉行寺として誕生。  
\* 国清寺と高岩院の二寺は 1416（応永二十三年）上杉禪秀の乱で炎上再建されたが 1491（延徳三年）北條早雲の堀越御所攻めの折再び炎上その後再建された。  
国清寺は衰微し、広い境内の杉木立の中の仏殿が往時を偲ばれる。

源頼朝の旗揚げに関係のあった、文覚上人が流罪になり住んでいた毘沙門堂が高岩院の山奥二キロほどの所にあります。

本尊の毘沙門天金剛力士像は、運慶作といわれ静岡県の重要文化財に指定されています。

高岩院の別院「菩薩林」が、裏手山奥1.5キロほどの所にあり、誰でも座禅の体験が出来ます。

是非、警策でバシッ！バシッと肩を叩かれてみてください。

●二十番札所

養徳寺（ようとくじ）

\* 本尊・十一面観世音菩薩

\* 山号・福翁山

\* 宗派・臨済宗・（円覚寺・末寺）

\* 草創・1387（嘉慶元年）

\*余計な飾り物のない本堂、清楚の中に力強さを感じる、いかにも禅宗らしい寺です、開創は足利時代。

その後1789（寛政元年）の大火で一切を消失、寺暦等は定かでない。

庭園には本堂と向きあうように、最近の作ですが二対の石像（父母観音と育児観音）があります。

●十六番札所

興聖寺（こうしょうじ）

\* 本尊・延命地藏菩薩

\* 山号・金宝山

\* 宗派・臨済宗（円覚寺・末）

\* 草創・1489（延徳元年）

\*マリア観音像があります。子供を抱いた観世音菩薩、徳川幕府の目から逃れる為の隠れキリシタンのマリア像と云われる。

鹿の襖絵、鎌倉時代に描かれたと推定され、猟師が本物の鹿と間違えて撃った銃弾の跡まであります。どちらも町の有形文化財に指定されています。

●十七番札所

泉福寺（せんぷくじ）

\* 本尊・不動明王

- \* 山号・明王山
- \* 宗派・真言宗（高野山派）
- \* 草創・不明
- \* 草創年代は不明、1204-1206(元久年間)と1742(保二年)2回の移転後、現在の場所に落ち着く。境内に入るとすぐ左側に観音堂があり、千手観音を安置してあります。

●十八番札所 宗徳院（そうとくいん）

- \* 本尊・地藏菩薩
- \* 山号・龍泰山
- \* 宗派・曹洞宗
- \* 草創・901-23(延喜年間)
- \* 富士山の天辺に檜を乗せた様な、独特な屋根。草創は古く延喜年間、真言宗の僧空海（後の弘法大師）が、この地に靈感を得て、延命地藏菩薩本尊として、堂を建てたのが始まりと、伝えられている。
- 1575(天正三年)曹洞宗に改宗。1814(文化十一年)火災にあい、古文書、寺宝等一切焼失した。
- 1823(文政六年)十六世・光林契禪が再建、本尊の延命地藏菩薩像は難を逃れて今日に伝わっている。
- 現在の本堂は1967(昭和42年)築です。

●十九番札所 蓮馨寺（れんけいじ）

- \* 本尊・阿弥陀如来
- \* 山号・君沢山
- \* 宗派・浄土宗
- \* 草創・1289(正応二年)
- \* 聖徳太子自作の石仏、日限地藏尊を安置
- \* 聖徳太子堂、子安地藏堂、芭蕉翁の句碑、等があります。
- 草創後は、豊臣秀吉の小田原征伐の時に山城の山中城(三島から箱根に登る途中の城址公園)攻略の際、三島宿焼き払いにあい焼失、1688-1704(元禄年中)類焼、1854(安政元年)震災。

1867(明治初期)の大火、と幾多の災害に会う。

距離 4 Km+2.5 Km+6 Km+4 Km+3 Km+1.5 Km+3 Km  
=約24 Km

タイム 下土狩5:50—北條寺発6:20—慈光院7:00~15—高岩院7:  
40~7:55—養徳寺8:45~9:00—興聖寺10:00~10:  
25—泉福寺11:25~12:30—宗徳院12:40~13:00  
—蓮馨寺13:50~14:05—三島北高前14:35(平日)龍澤  
寺13:30~13:45(休日)

温泉 10日=三島 Springs 温泉(700-)

経費 泉福寺=1000-

参考資料 「伊豆霊場振興会」HP

前回最終の北條寺から出発。今日も天気は良い。寺からすぐの所に昭和5年11月26日発生した震度6の北伊豆地震の「地震動の擦痕」がある。これは文部省の「天然記念物」に指定されている。

狩野川に架かる松原橋を通り対岸に渡る。まだ早朝で、散歩をする方々と挨拶を交わす。のんびりとした朝のひと時。



イチゴハウスは、1万本植えるそうです  
行すれば、慈光院は近い。早朝にもかかわら

ず寺の奥さんは嫌な顔もしないで、待っていてくれた。

ここのお寺はまだ新しく気持ちが良い。早々にお勤めを済ます。今日は何と言っても三島・広小路までの巡礼。最初から気合いが入る。

ここからほど近い、高岩院に向かう。この寺の南には「国清寺」がある。



慈光院

阿弥陀如来



かつてこの寺は、隆盛を極め伊豆における中心的な存在として、盛時には寺内に院や庵が7、80 あったとの伝承もある。（増訂豆州志稿）

なお、当寺の南東の山間にある毘沙門堂の山門には、県指定文化財の木造金剛力士立像2 軀が安置されており、現在は当寺の所有。文治2年（1186）源頼朝の発願によって運慶・湛慶父子が造立したという。

正面に「天長山国清寺」と書いた石柱がありその奥が「仏殿」（釈迦堂）。本堂はその右側を通って奥にある。「国清寺」自体は「本堂」、「庫裏」、「鐘楼」であり、他に、塔頭として「高岩院」、「徳隣院」、「龍泉院」、「松月院」があり、離れたところに「毘沙門堂」がある。盛時には7,80 の「院」や「庵」があったというのであるから、現在の本堂の場所を中心として付近の住宅や学校の場所までを含む巨大寺院であったのだろう。

正面のすぐ左手が塔頭「華頂峰高岩院」であるが、それを示す石柱に「国清寺塔頭奉行」と書いてある。「塔頭奉行」というのは初めて目にするものである。「国清寺」は現在塔頭「徳隣院」の住職が兼務している。（関連HPより）

高岩院に入る。平日は住職が庭掃除をしていた。庭には大きな「銀木犀」が花盛りだった。休日は住職が不在で過日、ご朱印を貰いに伺った。

小さな寺でやって行くのはなかなか大変で、頼まれれば他所の寺に手伝いに行き、生活の糧を得ていると話していた。見た目は強面の住職だったが、話してみたら案外、話しやすかった。

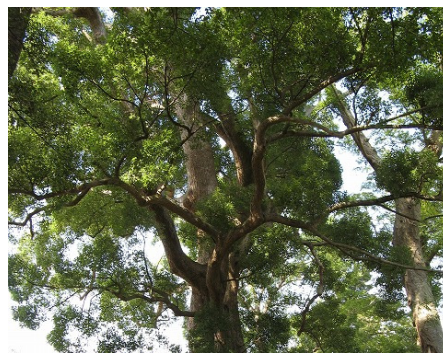


ここから右に大仙山を仰ぎ、畑毛温泉を通過し、函南町平井に入っていく。2年前ここでのアクシデントを思い出した。次は20番札所の養徳寺。

巡礼は、札所番号順に歩く巡礼を「順打ち」と呼んでいる。ただ、番号は必ずしも合理的に並んでいない。20番の前の19番は今日最終の広小路・蓮馨寺。「順打ち」にこだわれば、広小路から函南までまた戻る訳だが、それでは余りに不合理。

養徳寺は立派なお寺。大きな庭には父母観音と母子観音。背後には広々とした墓地。高台にあり眺望は極めて良好。本堂の戸板を開け、清々しい空気を一杯入れる。

欄干には人の一生を描いた板絵があった。母に抱かれ幸せな誕生時から、次第に「餓鬼道」(生前の悪行のために餓鬼道に落ち、いつも飢えと渇きに苦しむ亡者)に落ちて行く様と見ようには、そう取れる絵だった。



## 養徳寺

## 天地神社

寺を後にする。すぐ近くの「天地神社」には巨大な楠がある。春に巡礼した土肥・安楽寺の楠も大きかったが、ここも大きい。

熱函道路を西に下って行く。函南町役場は大きく立派。しばしば、引き合いに出されるのが三島市役所。あれは、私が子供のころから変わっていないから、かれこれ50年以上。財政難の昨今では、もう建て替えは無理か。

R136を過ぎるころ、左手に小さな山が見える。そこが次の興聖寺。近くの生垣に見事な花が咲いていた。

本堂に上がる。ここには有名な「マリア観音像」がある。ただ、作者も年代も不明。町によると江戸時代密かにキリスト教を信仰した人たちが「子育て観音像」と偽って守ってきた全国的にも貴重な観音像だという。

本体はしっくいで作られ、冠に十字架、胸にキリストを抱いている。ただ、頭の冠は、よく見ても分からない。



左・マリア観音像

前  
今回は次の泉福寺まで足を伸ばす。いよいよ、函南町から清水町に入る。休日時は天気がよく暑かった。途中のビルの日陰で大休止。

平日はお勤め後、昼食。休日は法事が終わってはなく、入口左手の観音堂で先に昼食を頂いた。

休日時、御殿場のSさんが、一時行方不明？で一瞬緊張が走ったが、自力で帰還。大事には至らなくて良かった。堂は気持ち良い風が渡り、昼食後は、恒例の昼寝を楽しむ。これは巡礼で至福の時間である。



泉福寺



午後はすぐ近くの宗徳院が最初。この本堂は美しく尖った屋根を持っている。富士山を模して作ったと聞く。音響？が良好で、お経が響きとても気持ち良かった。本堂の脇には、木製の飛行機のプロペラがあった。住職に聞いたら、詳しく分からないが、三島には戦時中、「中島飛行機」があった関係か？と言っていた。



宗徳院

今日最後の広小路・蓮馨寺に向かう。田町のコロナ写真店脇から、源平川沿いを歩く。初めての方が多く、ここは気に入って貰えた。源平川は水量もまあまあで、水中花の「ミシマバイカモ」が沢山咲いていた。



蓮馨寺は広小路のど真ん中の寺。宿場町で江戸時代には、芭蕉が東海道上り下り時、必ず寄ったようで墓がある。

「いざともに ほむぎくらわん くさまくら」と、寺に一泊した時の一句と言われる。



ミシマバイカモ



平日隊



蓮馨寺

休日隊